

High School Human Rights

(高校人権教育通信 第14号) 平成27年(2015年)11月6日

発行 長野県教育委員会事務局心の支援課

発行人 原 良通 (心の支援課長)

kokoro@pref.nagano.lg.jp

本人の能力・適性以外のいかなることも採用の基準にしない

～ 統一応募用紙の経緯と生徒の進路保障 ～

例年9月から始まる入社試験に向けて、就職を希望する生徒は、面接の練習や「全国高等学校統一応募用紙」(以下、統一応募用紙と表記)の作成を通して、自分自身のこれまでの生活を振り返り、また職業や希望する企業への思いを確かめながら希望の実現に向けて懸命に取り組んでいることと思います。同時に学校では生徒の希望が実現するように面接や書類作成などの指導をされていることと思います。

5月に開催した「高校人権教育研修・連絡協議会」では、桐畑善次先生(都立南葛飾高校教諭)に全体講演をお願いし、「**統一応募用紙**と**高校における同和教育**という演題で話を聞きました。桐畑先生がこれまでの教師生活の中で直面してきた就職差別の問題や意欲や能力のある生徒が、本人の意思とは無関係な事柄(家庭環境、貧困、出自、国籍等)を理由に拒否・排除されてきたことに対して状況を打開しようとしてきた桐畑先生の取組は、参加者が今までの実践を見つめなおす時間となりました。また、統一応募用紙の項目に含まれた意味にも言及した講演は、参加者が公正な採用選考、生徒の人権を考える機会となりました。

桐畑先生の講演の要旨

差別された生徒の訴えとそれに向き合う教師が変化をもたらした

1973年以前 統一応募用紙はなく、入社試験では各社ごとの「社用紙」を使用。



・社用紙には住居の総量数・家族の最終出身校など、本人の意欲・適性とは無関係の内容まで記入させられ、それにより生徒の進路希望を妨げられることがあった。社会ではこれを「当たり前」、「しかたのないもの」とそのままにしてきたのではないか。

1973年度 全国高等学校統一用紙 制定

公正な採用を求める生徒の訴えと差別を許さないとする教職員の取組による。

しかし、その後も面接や作文での違反事件は発生。改善を図る取組は継続へ。

1996年度「本籍地」「家族欄」の削除、「志望の動機欄」の拡大

2005年度「保護者氏名欄」の削除、「志望の動機欄」の再拡大

【現在の様子】へ

参加者の感想 (一部抜粋)

- 統一応募用紙の歴史から学ぶことにより、「おかしいと思いながらもあきらめている」生徒が、その声を上げる教育につなげていくということに共感することができた。知らずに教職員も就職差別の実態に加担しているようなことがないように、学校に帰って今回の話を多くの教職員で共有していきたい。
- 統一応募用紙の歴史を通して就職差別に向き合ってきた桐畑先生の実践は大変参考になった。生徒の受けた差別を教職員側が声を大にして訴えていくことで全体が変わってきたことを実感した。現在も就職差別がゼロになっていない現状がある。教職員側が正しい人権感覚をもつことが必要であると思う。
- 桐畑先生の講演は胸に迫るものがあった。「自分は差別の構図を支えてしまっている」と気づかされた。桐畑先生の実践を明日から私もやっていかなくてはいけないと思う。意外と「統一応募用紙」の歴史を知らない長野県の教職員は多いのではないか。

『橋のない川』の作者である住井すゑさんは、「人間の貴賤の差別を長いとか短いとか重いとか軽いとか客観的な数字で示せることなら、なるほどと思って肯定するしかないけど、貴賤を表す数字はあるのか。数量で表わせない、はかれないウソなのに、貴賤の差別があると信じるのか（※）」と述べています。就職試験に臨む機会をとおして、生徒と教職員がともに、統一応募用紙が現在の様式に至るまでの経緯を学び、公正な採用選考の在り方、応募者の基本的人権の尊重についての理解を深め、差別を許さない人権感覚の醸成につなげるような学校での更なる取組が求められています。

(※)『わが生涯 生きて愛して闘って』 住井すゑ・増田れい子著より 一部改

人権週間（12月4日～12月10日）に向けて

1948年12月10日に「世界人権宣言」が国連で採択されたことに由来して、毎年12月には人権週間が設けられます。**人権感覚は日頃の教職員や生徒同士の言葉や振る舞いの中で徐々に育成**されます。既に各校では、この週間に絡めた人権意識の高揚を目指す取組が計画されているのではないのでしょうか。わたしたちはこうした機会に改めて、今の社会に存在する様々な人権課題を考えるとともに、教職員一人一人の言動が生徒の人権感覚の醸成にもたらす影響を意識し、実践を積み重ねていきたいものです。

各校での人権教育の取組の推進に向けて、高校人権教育研究委員会が今年9月に「**高校人権教育指導ベーシック資料『素敵な学校』づくりに向けて**」及び**別添資料**を作成・配布しました。ご活用ください。

別添資料の内容

＜高校＞教職員の人権感覚チェック 15
 体罰根絶のためのセルフチェックシート
 人権が尊重される授業づくりの視点のチェックシート
 差別のない公正な採用選考に向けて

【例】学期の初めの職員会で定期的実施していませんか。

ご利用はこちらから … [長野県教育委員会ホームページ](#) → [人権教育](#) → [学校人権教育](#) → [指導資料](#)

信州発！ そのあとに続く全ての世代のために

長野初開催。いよいよ今月。

長野県では初めて、東日本では30年ぶり2回目となる「**第67回全国人権・同和教育研究大会**」が**11月21日（土）22日（日）**に開催されます。全国からは約1万人が集結し、県内からも17本の実践報告があります。この大会に受け継がれている、「差別の現実から深く学ぶ」という思想は、長野県での様々な差別や人権問題に取組む重要な視点となり、豊かな教育内容や幅広い教育実践などをもたらしてきました。しかしながら、今日、いじめ、虐待、貧困など社会が生み出す矛盾やしわ寄せが、生徒に大きく影響を及ぼし、困難を抱える生徒が増えています。

「一人の生徒にかかわりきることで見えてくる差別の現実から深く学び、教師自身の変革とともに、差別に抗していく“ちから”を生徒が自ら有していく同和教育実践の核心」をこの大会に参加し体感してみませんか。皆様のご参加をお待ちしております。

スケジュール（概要）

◆21日（土）		8:30	9:30	11:30	13:30	16:30
受付	開会・全体会 ※ホワイトリング（長野市 真島スポーツアリーナ）				分科会（実践報告） ※東北信地区21会場。 22日も同じ会場にて開催。 （特別分科会を除く）	
◆22日（日）		9:00	9:30	12:00	13:00	15:30
受付	分科会（実践報告）			分科会（実践報告）		

“すぐれた実践は確かな出会いから始まる すぐれた実践には感動がある
 すぐれた実践は人間を変革させる “

《第37回大会アピール（東京 1985年）》